



「日本航空は負の歴史を繰り返してはならない」「絶対安全を確立せよ」と訴える林さんと支援の人たち（12日、松山市）



単独機としては世界最悪の520人が死亡した日本航空123便の御巣鷹山墜落事故から40年の支える会は、松山市の市駅前で宣伝行動。参加者は過去最高で40人を超えたたかう愛媛争議団をとたかう愛媛争議団を支える会は、松山市の市駅前で宣伝行動。参加者は過去最高で40人を超えたたかう愛媛争議団を

史を繰り返してはならない」と訴え、解雇争議の早期解決と安全運航の確立を求めました。

愛媛うたごえ協議会は、「見上げてごらん夜の星を」「あの空へ帰ろう」などを合唱して支援。「40年も経ったのですね」と足を止め、チラシを受け取った女性が「がんばってください」と激励するなど、市民の注目を集めっていました。

JAL被解雇者労働組合（JHU）の林恵美さん（上写真）は、事故後、経営陣が刷新され、①絶

日本航空は負の歴史を繰り返すな

山墜落から40年 御巣鷹事故

日本航空は負の歴史を繰り返してはならない」と訴えました。

場の実態を、安全運航に切り換え、お客様に安心して乗つてもらう日本航空に変えるためには、解雇された私たち乗務員をまず職場に戻すことが必要です」と力を込めて訴えました。

「日本航空は負の歴史を繰り返してはならない」と訴えました。

対安全の確立②現場第一主義③公正明朗な人事④労使関係の安定融和

の4方針を掲げたが、新経営陣は1年半でJALを追わされることになり、520名の犠牲の上に立った方針がないがしろにされ、いまに至っていると指摘。

2010年の経営破綻を口実に、安全に対してもモノを言っていたベテラン乗務員165名を解雇するに至ったとして、「それ以来、不安全事例、パイロットの飲酒問題が後を絶たず、安全が危機にさらされている。この職

員の権利、空の安全、平和を守る闘いだといふことを肝に銘じて、これからも支援していきたい」と力を込めました。